

4. 日本の高校生に対する国際社会教育

山口 真司

2011.11.12

平素より、当活動へのご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。
この度、多大なるご協力のおかげで活動を実施することが出来たこと、改めて御礼申し上げます。この活動報告書では簡単にではございますが、活動の内容や収支などをご報告させていただきます。

「活動の目的」

日本の若い世代にフェアトレードに関心を持ってもらい、フェアトレード、国際社会について学び、自分達にもできる社会貢献活動について考えてもらうことを目的として活動を実施しました。また、フェアトレード製品を日本に紹介することで、途上国の方々のビジネス支援を目的として活動を実施しました。

「活動内容」

まず、わたしのガーナの友人に協力を依頼し、ガーナの農村に暮らす女性の自立を支援する NPO、HIV/AIDS 患者による NPO、孤児支援 NPO 団体が生計を立てるために作成している製品を日本に紹介したいと想いを伝え、フェアトレード製品の調達をすることをはじめました。ガーナとのやり取りは、電話、Eメールでのやり取りのため、なかなか上手く事が進まず、語学・文化の問題もあり、ミスコミュニケーションによる活動が困難なこともありましたが、試行錯誤をしながら、ガーナの NPO 団体が作成する製品を日本に輸送することができました。

2011年1月には、ガーナの生活について、フェアトレードについて、大阪の高校生を対象にしたワークショップを開催し、高校生生徒約40名と一緒にフェアトレードについて考え、生徒達自らがフェアトレードなど、自分達にもできる社会貢献活動について気付きを与える機会を持ちました。生徒、教師の方々からは、

「普段なじみのない途上国の暮らしについて知ることが出来、良い勉強になった。」

「フェアトレードという言葉初めて知った。良い勉強になった。」

「わたしたちにも出来ることはあると思う。出来ることについて、考えたい。」

などの感想もあり、国際社会について考えてもらうきっかけになったと思います。

2011年3月以降は震災の影響で、残念ながら、3月、4月に予定していた高校生を対象としたワークショップなどの活動はキャンセルとなってしまいましたが、わたしの配属先でフェアトレード製品の紹介をしたり、国際協力についてのセミナー会場にてフェアトレード製品の紹介をしたりすることが出来ました。

「成果」

生徒や教師の方々、協力をしていただいたメンバとの交流や出会いはわたしにとっても貴重なものとなり、これからも活動を継続していき、さらなる良い活動にするためのモチベーションにもなり、この活動の機会を与えていただいた大同生命厚生事業団様には大変ありがたく感じております。

「今後に向けて」

途上国で作成された工芸品は、紹介をした全ての場所でとても好評だったので、今後も活動を続けていけると感じました。今回は、ガーナのNPO団体を支援する活動になったが、世界各国のNPO団体と連携を広げ、フェアトレード活動について、国際社会との輪を広げていきたいと考えています。

また、今後は、日本の伝統工芸を海外途上国へ知ってもらうという活動をするなど、日本人が学んだ発見に加えて、途上国の方にも日本、異文化を知ってもらうよいきっかけにすることが出来るよう、双方間のコミュニケーションができる国際協力関係をしていきたいと考えています。

「活動写真」

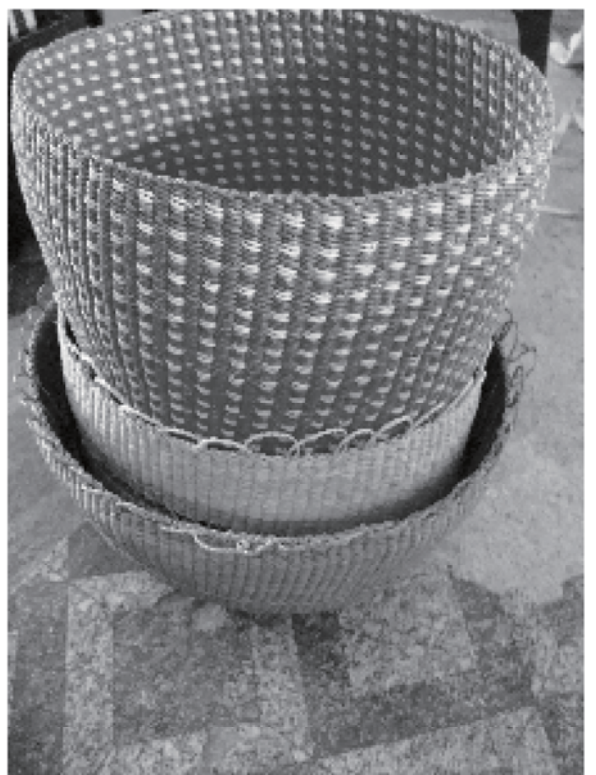
○勉強会の風景



○ガーナの工芸品カゴ作成風景



○ガーナで作られた手編みカゴ



「経費使途明細」

使用目的	支出
フェアトレード品輸送費	40350 円
プリント費	5500 円
海外送金料	6300 円
宿泊費	14000 円
交通費	25560 円
備品代	8290 円
合計	100000 円

以上